

# デザインで対話を

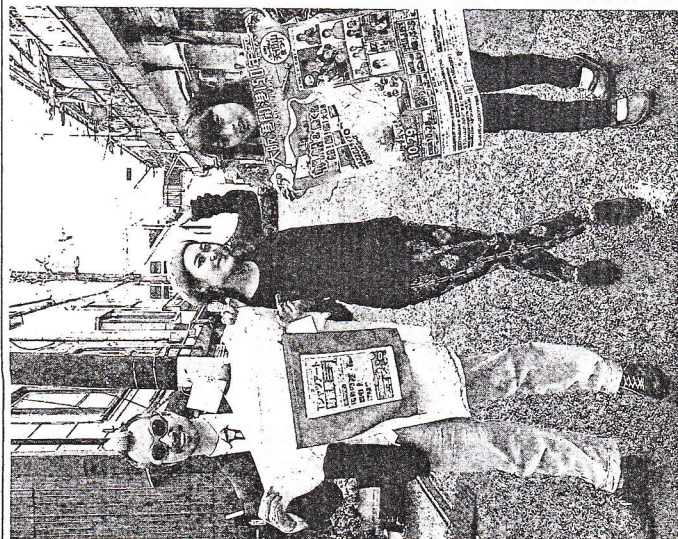
アート展 中学生250人が制作

29日から  
港区

思い思いにデザインしたTシャツを展示し、見た人が感想を書き残す「Tシャツアート対話展」が29日、大

阪市港区の赤レンガ倉庫横広場のアートスクエアで行われる。地元

の中学生が「自分の好きなもの」をモチーフに制作した。港区の歴史的資源を学び、アート作品を制作する「海・川・港町・わがまち港区 I LOVEアートプロジェクト」事業。同区内の築港、港、市岡東の3中学校の2年生約250人が参加した。



「自由に思ったことを書いてほしい」と話す藤田さん(左端)と運営スタッフ

ひ孫で、イラストレーターの柳原良平さんの作品を感想や意見を言い合う「対話」型で鑑賞。Tシャツはそれぞれが「自分の好きなもの」を選び、「なぜ好きなのか」「それは150年後に存在しているのか」「伝えたいメッセージは」など、この質問に答えながらデザインメッセージを膨らませ、シルクスクリーンで仕上げた。

Tシャツの感想を書き残した人には人気ショップ「コーン店」「ポップコーンパ」の商品引換券をプレゼント。藤田さんは「人によって作品を見る角度や考えが違ふ。自由に思ったことを書いてほしい」と話している。

当日は同会場のほか、中央突堤と海遊館横広場で「大阪港開港150年祭・第10回天保山まつり」が開催される。

(光長いつる)